

山口県 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次の通り提出します。

1. 調査研究概要

本県では、令和元年度から2年度にかけて、文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」を受託し、その際作成したカリキュラム・マネジメントの手引きを全県に周知徹底しているところである。

その知見を、県内全ての学校に広め、社会に開かれた教育課程の実現を推進するために、社会に開かれた教育課程の視点に基づくカリキュラムを「学校・地域連携カリキュラム」として定義し、改めて全ての小・中学校に作成と活用を求めているところである。（作成については、全ての学校で作成済）

本県では、平成23年度から「学力向上推進リーダー」（教頭職）を配置し、自校や訪問する学校の授業力向上に向けた校内研修や個別の教員への助言等を行うことで、組織的な授業改善に向けた機運の醸成や教員一人ひとりの資質・能力の向上に寄与してきたところである。このような本県独自の仕組みを活用しつつ、学力向上推進リーダーがカリキュラム・マネジメントの考え方を踏まえた授業改善やカリキュラム等への助言を担い、教員一人ひとりのカリキュラム・マネジメントに対する意識の向上を図り、社会に開かれた教育課程を実現させるよう取り組んだ。

主な成果と課題については次の点があげられる。

《主な成果》

○県主催のカリキュラム・マネジメントに関する研修が充実し、学力向上推進リーダーのカリキュラム・マネジメントに関する理解が深まり、各学校での研修を通して教職員の学校教育目標や育成すべき資質・能力、日々の教育活動等の見直しに対する教職員の意識が高まりつつある。

○コロナ禍で実施が難しい中、学校運営協議会における熟議（学校・地域で育成したい資質・能力の明確化）が進んできた。（県の独自調査：小 96.0% 中 94.3%）さらに、児童生徒が熟議に参加する学校も増加している。（県の独自調査：小 26.4% 中 39.0%）

《主な課題》

●学校教育目標や、育成したい資質・能力について、中学校区内の小中合同の研修会等を通して理解は進められているが、授業レベルでの実現がなされていない。

●各校では、「学校・地域連携カリキュラム」として「グランドデザイン」「9年間の単元配列表」が作成されているが、授業改善や行事等、日々の教育活動の見直しにつながっていない。

●多くの学校では、学校運営協議会等で「学校・地域連携カリキュラム」について協議しているが、児童生徒の熟議への参加は十分とはいえない。

●コロナ禍の中、県外視察が制限され、オンライン中心の研修になり、学力向上推進リーダーに提供する研修（情報）が県内中心のものに偏った。

このような成果と課題を踏まえて、次の点を重点にして取り組み、各学校の知見をカリキュラム・マネジメントの手引きとしてまとめる。

《次年度の改善のポイント》

◇学校教育目標等を実現するために、ユニット型研修（学校運営協議会の委員との授業検討会）の充実（頻度をあげる）

◇学校運営協議会等において、児童生徒が参加する熟議の充実

◇学力向上推進リーダーの学校訪問だけでなく、市町教育委員会学校担当指導主事や県教育庁義務教育課指導主事の学校訪問の際での、カリキュラムマネジメントシートを活用した管理職面談の充実

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	・県教育委員会地域担当指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有
5月	・中心校校長会連絡協議会(5/10)におけるカリキュラム・マネジメントの説明 ・カリキュラム・マネジメント研修会(5/20 学力向上推進リーダー対象) ①所管説明、②鼎談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」(山口大学教育学部 教授 静屋 智、周南市立徳山小学校 校長 磯村 勇、萩市教育委員会指導主事 田中由起枝)、③グループ協議
6月	・情報交換会(オンライン)各学校の実践事例の共有(6/10) ・学力向上推進リーダー等交流研修会(6/18) 山口市立上郷小学校 ①授業参観、②ミニ研修参観、③社会に開かれた教育課程の実現に向けて(山口県教育庁義務教育課 主幹 吉松良子、指導主事 大田 誠)、④情報交換
7月	・山口県小・中学校管理職リーダーシップアップ研修会(7/9) ①所管説明、②講義「つながりを核としたカリキュラム・マネジメントの在り方」 広島大学大学院教育学研究科 教授 曾余田浩史、③情報交換・研究協議 ・情報交換会(オンライン)ミニ研修会(7/21)
8月	・県教育委員会地域担当指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有
9月	・情報交換会(オンライン)各学校の実践事例の共有(9/9)
10月	・情報交換会(オンライン)各学校の実践事例の共有(10/7)
11月	・中心校校長会連絡協議会(11/1)におけるカリキュラム・マネジメントの説明 ・学力向上推進リーダー等交流研修会(11/8) 光市立浅江中学校 ①授業参観、②浅江中学校の取組紹介、③社会に開かれた教育課程の実現に向けて(山口県教育庁義務教育課 主幹 吉松良子、指導主事 大田 誠)、④情報交換、⑤講評(浅江中学校 校長 重本浩志) ・情報交換会(オンライン)ミニ研修会(11/10) ・情報交換会(オンライン)各学校の実践事例の共有(11/11)
12月	・文部科学省の实地調査(12/21) ①授業参観、②協議、③指導助言(千葉大学 名誉教授 天笠 茂、明星大学教授 吉富 芳正) ・カリキュラム・マネジメント研究協議会(12/21) ①所管説明、②各校の事例発表・協議、③指導助言(千葉大学 名誉教授 天笠 茂、明星大学 教授 吉富 芳正) ・社会に開かれた教育課程の実現のためのカリキュラム・マネジメントと学校・地域連携カリキュラムのオンライン研修会(12/24) ①所管説明、②座談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」(防府市立松崎小学校 校長 秋川 茂、光市立浅江中学校 教頭 神田橋芳幸、山口市立鴻南中学校 学校運営協議会 会長 川上修一、指導助言：文科省初等中等教育局教育課程課教育企画室長 石田有記)、③グループ協議
1月	・カリキュラム・マネジメントビギナーズ研修会(1/6) ①所管説明、②鼎談「何のために学校・地域連携カリキュラムを作成するのか」(山口大学教育学部 教授 静屋 智、周南市立徳山小学校 教頭 大田 英樹、宇部市立上宇部中学校 教頭 藤高 学)、③グループ協議
2月	・やまぐち教育フォーラムでの発表(「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」義務教育課指導主事 徳永 淳一、宇部市立黒石小学校 教頭 中島香織、長門市立深川中学校 教頭 吉岡 明美) ・カリキュラム・マネジメント検討会議(2/21AM) ①所管説明、②各校の取組紹介・協議、指導助言：山口大学教育学部 教授 松田 靖、光市教育委員会地域連携教育エキスパート 木本育夫) ・カリキュラム・マネジメント検討会議(2/21PM) ①所管説明、②各校の取組紹介・協議、指導助言：山口大学教育学部 教授 静屋 智、教授 松田 靖、

	<p>光市教育委員会 地域連携教育エキスパート 木本育夫、周南市立富田中学校 校長 吉岡智昭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント検討会議（2/24AM）①所管説明、②各校の取組紹介・協議、指導助言：山口大学教育学部 教授 静屋 智) ・カリキュラム・マネジメント検討会議（2/24PM）①所管説明、②各校の取組紹介・協議、指導助言：周南市立富田中学校 校長 吉岡智昭、萩市教育委員会 指導主事 田中由起枝)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会における県教育委員会地域担当指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有 ・学力向上推進リーダーR 4 事前研修会 ①所管説明、②事例発表（美祢市立大嶺小学校 教頭 平尾 寛、平生町立平生中学校 教頭 大山裕子）、③情報交換

2. 調査研究の内容

(2) 岩国市立岩国小学校

<p>(1) 研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究 <input checked="" type="checkbox"/> b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究 <input type="checkbox"/> c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究 <p>(2) 調査研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営 ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化 ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修 ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営 ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善 <p>(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳実践セミナー（2年次）発表に向けて、道徳科のカリキュラムのみならず、学校・地域連携カリキュラムも、実践を通して加除修正を行い、実践をHPで紹介した。 ○GIGAタブレット導入に伴い、teamsでの児童間交流を実施することができた。 ○岩国地区34校全ての小学校に訪問することで、15中学校での地域・連携カリキュラムに対する取組を知ることができた。 ○ICTの活用については、岩国地区全ての先生方の実践を参観することができ、育てたい資質能力の一つである情報活用能力を育むための工夫について共有することができた。 ●コロナ禍で2年連続できていない小中一貫の取組を、来年度、2年前のように推進していくことができるか不安がある。特に、中学校との連携には課題があり、進めていくために工夫する必要がある。 ●小中一貫・コミスク等の推進に関して、教職員の意識を変えるためには、業務改善に繋がる取組である実感が伴わないと、持続可能な取組にならない。 ●全ての小中学校区で小中一貫校としての取組を推進しているが、ほとんどの中学校区で中学校が主で進めているので、小学校のカリマネに関する意識が薄いことが課題である。

(2) 岩国市立麻里布中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- あいさつ運動は、毎週月曜日という高い頻度で行っている。日常的な情報伝達や意見交流は、この場で多く生まれている。
- 花一杯運動は地域の方の熱心な取組みのおかげで、生徒のボランティアも多数参加している。
- チャレンジ学習会は、10月以降の土曜日に実施。昨年度は、講師の人数や回数を絞って実施した。地域の方の「生徒の将来にむけた頑張りを支えたい」という熱い思いに支えられている。
- 本来であれば、参観など生徒と地域で直接ふれあう機会を持つ予定であったが、今学期は新型コロナウイルス感染症対策のため、参観は中止した。しかし、昨年度「授業がどのように変化するか楽しみ」と言われていた ICT を活用した授業については、授業動画を用意し、参観に代えた。視聴後、たくさんの質問や、身に付けてほしい力など、御意見を頂いた。
- 麻里布中学校の地域連携に関する活動は、すでに伝統といえるほど定着している。それらを継続しながら、更に進化させるための取組みを、学校運営協議会で共に考えていきたい。
- 学校運営協議会役員と生徒が共に活動する場合は、昨年度同様に実施する。今年度は小中の管理職や研修主任が一堂に会して、地域連携カリキュラム作成を進めている。今後、多くの教職員を参画させ、市指定研究と合わせて進めていく。さらに合同学校運営協議会にて、説明を行い、意見を頂く予定である。

(3) 柳井市立柳井小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 柳井中学校区の拡大運営協議会で「めざす児童生徒像」が決まり、学校・地域連携カリキュラムの作成が進んだ。
- 柳井中学校区の教職員が一堂に会し、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力について共有し、学力向上に向けた熟議を行った。
- 市教委と連携し、学校・家庭・地域がビジョンを共有するための具体的な動きをつくることのできた。（柳井市教委作成「学びのサイクル確認シート」の活用）
- タブレットを活用した授業づくりについて、市内の実践の好事例を広め、情報活用能力を育成するための工夫について共有することができた。
- 学校運営協議会に児童が参加し、熟議を行うことで、当事者意識が高まった。
- コロナ禍で、地域の方との連携が制限された。
- 来年度に向けて、グランドデザインの見直しと総合的な学習を軸とした9年間の単元配列表の作成に力を入れたい。

(4) 柳井市立柳井中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○3学期から、生徒会が活動をはじめると同時に、生徒会を中心とした「あいさつ運動」を始めた。毎週月曜日の朝、生徒会メンバーや部活動のボランティアが学校入り口周辺であいさつの輪を広げている。この活動を、柳井中学校区で行い、さらに小学校前でのあいさつ運動に中学生が参加をする構想も上がっている。戸外での活動であれば、コロナ禍でも少し安心して取り組むことができるため、この活動が広がりを見せていくことを期待している。

●コロナ禍における地域連携のあり方に工夫が必要である。今年度、できる限りの活動を行ってきたが、コロナの影響により、どうしても活動の制限がかかってしまった。

●来年度は、今年度作成したグランドデザインについて、作成に関わっていなかった教員に当事者意識をもって見てもらうことができるように工夫したい。

●グランドデザインは作成できたが、総合的な学習の時間を核とした9年間の単元配列表の作成が必要であり、ビジョンの共有が必要である。全教職員に関わってもらいながら作成を進めたい。

(5) 田布施町立東田布施小学校

(1) 研究テーマ

a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化

・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）

・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学校・地域連携カリキュラムを地域連携担当者とともに見直し、教職員全員で今の学校の実情に応じた内容に作り直した。

○カリキュラム・マネジメントの研修を実施し、グランドデザインの作成を試みた。中学校区の事情から9年間を見通した育てたい児童の資質などは十分に検討できていないが、具体的な作業から今後どのような道筋で完成に向かうか共通理解を図ることができた。

○学力向上推進リーダーとして担当校を訪問し、各校のカリキュラム・マネジメントについて情報を得ることができた。また、それを他校に情報提供し共有することができた。

●コロナ禍で、学校運営協議会、熟議等が中止になるなど、地域とともにカリキュラム・マネジメントを進めていくための場が設定できなかった。

●来年度に向けて、9年間の単元配列表を作成中である。特に総合的な学習の時間については、活動内容や児童に身に付けさせたい力を具体的に明らかにした上で、単元配列表に反映できるように進めている。

●学校運営協議会の熟議に児童が主体的に参加できるようにするための働きかけが十分ではなかったため、来年度見直したい。

(6) 平生町立平生中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○全教科による地域人材・資源を活用した授業を実施した。部活動指導員による「剣道」の授業、三新化学工業研究員による「化学」の授業など、その道の専門家に授業をしていただくことで、生徒の意欲も高まり積極的に活動に取り組んでいた。また、その中で教科等横断的な学びを仕組む取組も推進できた。さらに、平生町でめざす子どもを育成するための、授業スタンダードを作成した。

○毎年「総合的な学習の時間」を活用して、地域のお年寄りを訪問して手伝いをしていたが、今年度は訪問を取りやめて「手紙」を作成した。同時に、国語の時間を使って手紙の書き方を学習した。また、平生町の依頼でオリーブ畑に飾る看板を制作した。授業外の活動になるが、多くの生徒が積極的にボランティアにも参加しており、コロナ禍の中で地域とのつながりを意識した教育活動を展開している。学校にボランティアで訪れた地域の方が、気軽に授業を受けて帰るといふ取組も進めることで、教員にもよい刺激となり、地域とのつながりを深めている。

●コロナ禍で地域との関わりが減少しているが、今年度取り組んだ地域人材等を活用した授業の教科等横断的な計画や、地域の方々の日常的な授業参加を来年度も効果的に進めるとともに、学校運営協議会の熟議に生徒の参加の可能性も探っていききたい。

●9年間の単元配列表の作成が進まなかった。来年度は、小学校と連携した学校・地域連携カリキュラムの作成を進めていきたい。

(7) 周南市立徳山小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○年度始めに作成した年間カリキュラム表を「記録簿」として捉え、実践して気付いたことなどをメモに残していくこととした。記憶の新しいうちに振り返りを行うことで、アイデアや改善点が、次の単元やつながりのある教科で生かすことができる。

○毎年7月下旬に全教職員参加の学校運営協議会を実施している。ここでは、1学期の教育活動を振り返りつつ、2学期以降の授業について年間カリキュラム表を基に熟議を行う。今年も委員からたくさんの情報提供や授業へのご示唆をいただいた。いただいた情報を基に、夏季休業中に、地域の方と連携して2学期からの授業の計画を立てた。

○校区内の会社を教材化した「情報産業とわたしたちの暮らし(第5学年社会科)」の授業公開を行った。授業の計画・準備(P)→授業公開・参観(D)→評価(C)・改善(A)の一連の流れに地域の方に関わっていただき授業の質の向上をめざしている。授業後はユニット型研修を行い、教員とは異なる視点で意見をいただいた。改めて子どもへの指導や支援等を見つめ直すことができた。

●カリキュラム・オーバーロードが解消できるように、取組の仕方等をさらに工夫したい。

(8) 周南市立周陽中学校

(1) 研究テーマ

a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化

・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会(教頭連携)

・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○小中合同研修会における各プロジェクトチームによる熟議が進んだ。中学校区での目指す子ども像の再確認と継続可能な取組の見直し等、連携のあり方について熟議した。

○地域の方や小学校の先生方の参加は叶わなかったが、ユニット型研修の取組の中で、人材育成やICTの活用に焦点をあてた授業研究を進めた。

○予定していた多くのボランティア活動が中止になったものの、地域貢献活動、地域清掃活動やあいさつ運動など、状況に応じて時期や内容を変更しながら実施することができた。

○校務支援・授業補助の取組に、学生ボランティアとして地域の大学生に参加してもらうことができた。

○主に総合的な学習の時間のキャリア教育に関連する内容では、地域の方をゲストティーチャーとして招いた。

●コロナ禍においても、学校から地域行事への参加、地域の方の学校行事への参加等の活動を充実させていきたい。来年度は、学校や生徒の様子を見ていただく場を工夫して設定したい。

●ランドデザインの見直しについては、計画的、組織的に取り組みたい。来年度は、年間を通

して見直しをもち、見直しを図りたい。教職員全員が意識を高く持ち、改善に向けて意見を共有する場を設定し、且つ全員の負担にならないような、長・短期的な取組を進めたいと考えている。小中の情報交換についても適切なタイミングを図る必要がある。

●各プロジェクトチームの取組のPDCAを充実させたい。学校運営協議会熟議で、校内や小中連携の各プロジェクトチームの取組や考えを取り上げる工夫が必要である。

●来年度は、小中連携の日常化や、学校運営協議会熟議への生徒参加や生徒と委員との意見交流等に取り組みたい。

(9) 光市立浅江小学校

(1) 研究テーマ

a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化

・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修

・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○教職員の要望に応え、リアルな課題解決につながる取組の一步を踏み出せつつある。（例）単元計画シートづくり、児童のタブレット端末活用目安表の作成、モジュールプリントの提供、リアルタイムな授業づくりチャットの開設 など

○学力向上の取組や授業づくりに関する情報交換チャットにより、他校の情報をリアルタイムに共有できる状況にある。

○室積中学校区の熟議、島田中学校区の児童生徒熟議、三井小学校の「学校・地域連携カリキュラム」見直し熟議に参加し、各中学校区の実態を把握できた。

●学力向上に関するアンケートのみにとどまっている。

●教員の自主的な交流には至っていない。

●各校長との対話を進めることはできつつあるが、その後の展望がもてていない。

●カリ・マネに関する支援とアンケート調査等も実施し、教職員のカリ・マネへの意識を高める必要がある。

○教科等横断的な学びやカリ・マネに関する情報を共有できるものに広げる。

○総合的な学習の時間や教科等横断的な学びの充実に焦点化したカリ・マネに取り組む必要がある。

(10) 光市立浅江中学校

(1) 研究テーマ

a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学

校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学校評価項目をグランドデザインの「本年度の努力点」6項目に設定した上で、学校運営協議会で話し合った。グランドデザインとの関連が分かりやすく、協議で意見がたくさん出た。

○全教員を2つのユニットに分け、毎週月・水（学力Lのいる日）に実施。該当教員が予めシートに簡易な指導案を作成し、参加教職員がタブレットを用いて授業の気づきを直接書き込んだ。また、✓を使ってねらいを明確化、学力Lとの協議にも活用。

●学校・地域連携カリキュラムとグランドデザインの更なる見直しを図りたい。学校教育目標・めざす子ども像と「各教科」のつながり、小中連携を踏まえた9年間の単元のつながりをより明確にし、教科相互のつながりも見据えること（毎日の授業の位置づけを意識）や、より見やすい分かりやすいグランドデザインを作成する。

●コミュニティ・スクールのガバナンス強化・協働活動との連動を進めたい。学校運営協議会をより活性化（承認機関にとどまらせない）させることや、コロナ禍においてもつながってきた地域人材との活動・連携を更に工夫して行う。

●業務改善につながる取組にしたい。教職員の多忙感は比較的少ないと思われるが、時間外在校時間が長いのが実情である。持続可能な取組にするためにも喫緊の課題と言える。

（11）下松市立公集小学校

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2） 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学運協の熟議：各プロジェクトチームの取組を活性化することができた。

○ユニット型研修：人材育成の視点を入れた授業研究協議会を実施した。

○あいさつ運動：中学生を交えての朝のあいさつ運動に取り組んだ。

○地域へのプレゼン：よりよい下松市の創造に向けて取り組んだ。

○授業ボランティア：理科、家庭科、図書、読み聞かせ 等

○ゲストティーチャー：総合的な学習の時間、部活動 等

- 小中高大連携：高校生によるテニスボールの穴開け、大学生による器械運動授業
- コロナ禍により教育活動が制限されている中での工夫した取組を模索したい。
- 中学校区での目指す子ども像の共有と取組の具現化を図りたい。
- ICT活用や教科横断的視点での地域素材開発を進めたい。
- 小中合同学運協開催や学運協熟議への児童参加を促したい。
- 小中連携をもとにした地域貢献につながる取組を実現させたい。

(12) 下松市立下松中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○中学校区3校の教職員、保護者、地域の方120名以上が一堂に会し「15歳までに身に付けさせたい姿（態度）」の具体について検討・共有ができた。その中で、それぞれの立場で発達段階に応じた姿（態度）とそれに向けた取組を具体化し、学校・地域連携カリキュラムの見直しを進めることができた。

○一昨年度から取り組んでいる生徒会、専門委員会が企画した地域活性化プロジェクトについて、学校運営協議会委員から素案へ助言をいただく機会を設けることができた。そうすることで、これまでの取組を基にした改善案が地域の方に評価され、よりよいものへとなる期待感を生徒がもち、具現化できる取組へとすることができた。

●動き始めた取組が持続可能なものとなるような仕組みづくりが必要である。

(13) 山口市立湯田小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- グランドデザインをのり直し、めざす子ども像と教師像の共有を図ることができた。
- 小中連携における熟議を行い、めざす子ども像と重点取組の共有を図ることができた。
- ユニット型研修を実施し、ミドルの育成に焦点をあてた授業研究を行った。
- 地域人材を活用し、ゲストティーチャーを入れて、総合的な学習の時間等を活性化することができた。
- コロナ禍における教育活動の取組の在り方を見直す必要がある。
- 学校運営協議会への児童の参加の機会を設定する必要がある。
- 小中連携をもとにした地域貢献活動の在り方を見直し、充実を図りたい。

（14） 山口市立平川中学校

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2） 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 地域連携・・あいさつ、家庭学習、SNSをテーマとして熟議を行った。
- 中学校区における小中連携推進会議（月1回）小中連携主任会議（年2回）を実施した。
- 言語活動の充実に向けた校内研修を行っており、日頃の授業から意識を高め、互見授業で研修を深めた。
- コロナ禍で、地域を巻き込んだ活動が例年ほどできなかった。そのような中、夏には学校運営協議会の合同研修会を行い、生徒会執行部を交えて熟議を行った。
- 小中連携では、いくつかの活動ができたが、全教職員が連携に関わっていない。
- ◇全教職員が関われる組織作りの土台はあるので、意識化を図り、系統的に実践する取組を進めていきたい。

(15) 防府市立中関小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 4年生の総合的な学習の時間において、地域の方と一緒に「中関子ども安心・安全マップ」の作成に取り組んだ。計画を進める中で「地域のみなさんが危険と思っているところや気をつけてほしいと思っているところを地図に載せたい」「みまわり隊や地域のみなさんがどんな思いで毎日立ってくださっているか、インタビューしてみたい」という子どもたちの願いが多く聞かれた。みまわり隊や母親クラブの方に参加いただき、地域の声を大切にして作成に取り組むことができた。
- 小中連携中学校区夏季合同研修会、学校運営協議会等の見合わせが続くため、本校の教育活動をホームページで積極的に紹介するとともに、保護者メール等で閲覧の呼びかけを行っている。
- 「あいさつ大作戦」と題して、学校、家庭、地域の中であいさつが広がる取組を、地域を巻き込んで実施した。
- 学校教育目標等を具現化した中関コミスクキャラクターを、家庭や地域からも候補を募り、児童、教職員、学校運営協議会委員によるオンライン投票で決定した。

(16) 防府市立華陽中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○社会に開かれた教育課程の実現に向けてビジョンを共有できるようにするために、カリ・マネの手引きを用いて研修を実施した。

○地域の方の協力を得て、放課後学習会を実施することができた。これは、学校運営協議会委員における育てたい子ども像の共有によるものである。

○校内ミニ研修会に小学校教員を招待し、小学校における総合的な学習の時間の、地域素材を活用した内容（ICT活用の取組・ドリームマップ）について理解を深めた。

●「学校・地域連携カリキュラム」が機能する仕組みを整える必要がある。

●年間に1、2回の研修では教職員の参画意識・当事者意識が変わりにくいため、継続的に、一体的に取り組む体制を整える必要がある。（地域連携担当者、管理職の仕事という意識）

●総合的な学習の時間が形骸化しており、地域人材と関わる場はあるが、教師主導で生徒の主体性が引き出せていない実情があるので見直す必要がある。

●生徒の生の姿や思いを反映するために、学校運営協議会との協議の持ち方を見直す必要がある。



(17) 宇部市立黒石小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○中学校区の3校の合同学校運営協議会に生徒会執行部が参加し、学校運営協議会委員と熟議した。「心」「学」「体」の3部会ごとに、それぞれ3つのグループを作り、各グループの中学校の先生方が進行役&中学生が発表役となって実施した。

熟議テーマ「地域に愛される中学生とは」



○配置校だけでなく、兼務校においても、放課後のミニ研修会を学年単位で行い、参観した授業を「年間指導計画や単元計画と学校教育目標や地域連携カリキュラムとの関連」の視点で協議することができた。

●これまでの活動を継続していくことの大切さ、with コロナでの持続可能な活動を考えていくことの重要性を感じた。今後は子どもの主体性を大切にされた学校運営協議会への参画の在り方を考えることが必要である。

(18) 宇部市立上宇部中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学校運営協議会の熟議を生徒会役員が主導して、地域づくりの具体案を提案し、地域住民と意見を交わすなど、生徒がグランドデザインに基づいた思いや意見を語る機会を設定してきた。

○グランドデザインに基づいて学校評価アンケートを実施した。その際に、小・中共通の視点に

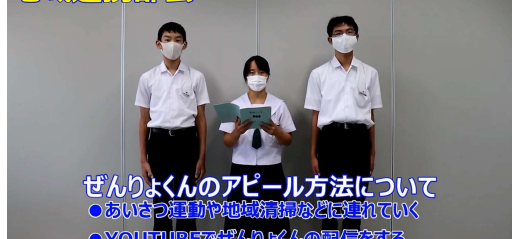
立ったものや、学校運営協議会で出た意見をアンケートの評価項目に反映するなど、学校評価アンケートそのものを見直して実施した。

○SDGsを軸にして「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開している。

○各種評価を放課後学習教室の講師の方々や小中の教職員・生徒で共有し、改善について検討した。

○コロナ禍でいろいろな制限を受ける中、YouTubeで地域に情報を発信する等、生徒の学びを止めない取組を実施することができた。

地域連携部会



●大きなPDCAと小さなPDCAを回して、カリキュラムに関わる人の納得感につながるように取り組んでいく必要がある。

(19) 美祢市立大嶺小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○プロジェクト会議を立ち上げ「組織運営の活性化」につなげることができた。

○熟議（研修）を充実させて、参画意識・当事者意識をもつことができた。

- ・プロジェクト会議…各校の代表が集い、課題の共有を図る。
- ・熟議の充実…学校運営協議会、地域協育ネット、全教職員
- ・研修の充実…講師を招聘し、小中 一貫教育やカリ・マネについて学ぶ。

○総合的な学習の時間を軸とした単元配列表を作成し、来年度への見通しをもつことができた。

●学校運営協議会で開催される「熟議」への児童参加を検討する必要がある。

●中学校区での目指す子ども像を基にした具体的な教科等における取組内容を再構築する必要がある。

●学力向上につなげるための「スタイル」を構築し、児童、生徒の自己肯定感を高めていく。

●作成したカリキュラムでPDCAサイクルを回して、年度更新をかけていく仕組みを確立する必要がある。

(20) 美祢市立大嶺中学校

(1) 研究テーマ

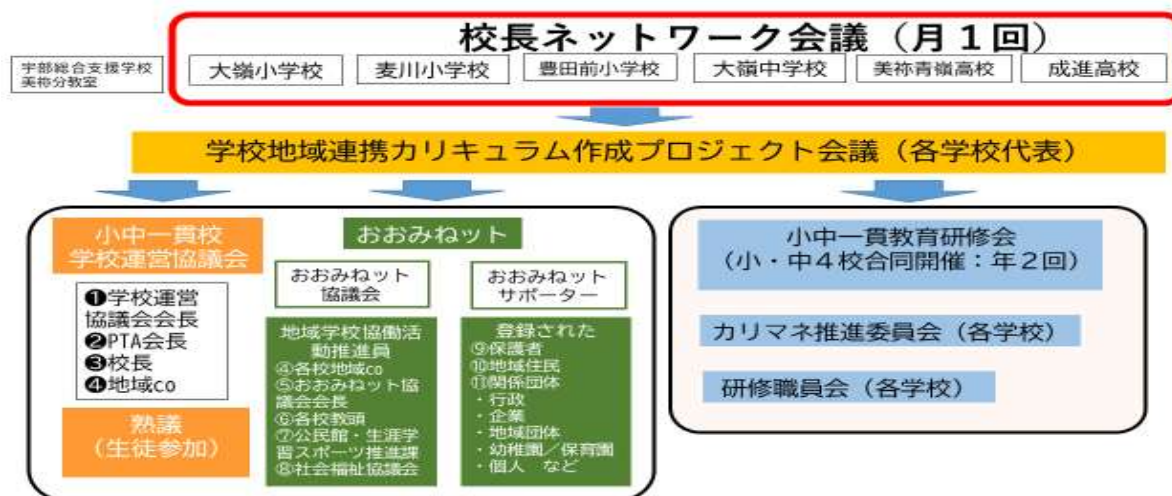
- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学校・地域連携カリキュラムを何度も見直す仕組みをつくることができた。年間に1回見直すのではなく、年間をとおして何度も見直す点が大切であることを確認できた。



- 学校運営協議会の研修会にて、生徒会役員を入れた熟議を行い、課題を明らかにした。
- 地域の魅力を考えると同時に、地域課題を把握し、課題を解決するための総合的な学習の時間の見直しを行うことができた。
- 総合的な学習の時間の見直しについては、学習を活性化させるためにも継続的に行っていく必要がある。

(21) 山陽小野田市立高千帆小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 4月県確認問題や全国学力・学習状況調査、学力定着状況確認問題の調査結果を基にして課題を把握し、学校だけでなく市内で解決すべき課題を共有、解決に向けた取組を協議した。
- 情報活用能力の育成に向けたICT教育情報交換会において指導助言した。
- 情報活用能力の育成に向けた一人一台端末活用の好事例等を「リーダー通信」として発行した。
- 訪問校においてユニット型研修を実施した。
- 学校・地域連携カリキュラムにおいて、「ランドデザイン」にあたる部分が充実していない点に課題がある。
- 9年間の学びの連続性を意識した総合的な学習の時間の取組にするために、小中合同での研修等が必要である。
- 教科等横断的な視点から学校・地域連携カリキュラムを見直す機会を充実させる必要がある。
- 学校・地域連携カリキュラムを、地域や教職員へ理解してもらう仕組みが必要である。

(22) 山陽小野田市立小野田中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）

・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 「学校・地域連携カリキュラム」の作成や改善が進んだ。
- 生徒参加型の熟議が実施され、その成果が見える化されていた。
- 小野田中学校区では、校区の小学校2校と合わせた三校合同研修会を新たに立ち上げ、埴生中学校の事例を基に、学校・地域連携カリキュラムを大幅に改善した。

小野田中学校区 地域ブランドづくり学習「」 推進のための学校・地域連携カリキュラム (1案)	
小野田小学校 埴生小学校 小野田中学校教育目標	自ら学び考え、ふるさととつながる心豊かな子どもの育成
目指す子ども像	自ら読んで考え、自然に話かけて来られる子ども 思いやりを言葉で伝え、解決を勧める子ども 自分のよさを伸ばし、困難に立ち向かい強くなる子ども 積極的になり、積極的に学び、創意工夫に活躍する子ども
目指す地域像	みんなが地域とつながり、思いやりと笑顔があふれ、実業に誇りに地域
「」の目標	
豊楽園に訪れた子どもの姿	地域で体験活動を通して 地域の人、文化、自然と関わる 地域の営みに触れ、地域を探究し、地域に貢献する
育みたい資質・能力	人、もの、ことに関わりあうとする活動態度 課題を見つめ、解決の足しをもち、達成する力 相手の思いや考えを聴き、自分の思いや考えを伝える力
学年/学年	1学年 2学年 3学年 4学年 5学年 6学年 7学年 8学年
ふたばの森 「知る」 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 地域の産業・文化を学ぶ 地域の課題・問題に取り組む	1学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 2学年: 地域の産業・文化を学ぶ 3学年: 地域の課題・問題に取り組む 4学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 5学年: 地域の産業・文化を学ぶ 6学年: 地域の課題・問題に取り組む 7学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 8学年: 地域の産業・文化を学ぶ
ふたばの森 「知る」 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 地域の産業・文化を学ぶ 地域の課題・問題に取り組む	1学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 2学年: 地域の産業・文化を学ぶ 3学年: 地域の課題・問題に取り組む 4学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 5学年: 地域の産業・文化を学ぶ 6学年: 地域の課題・問題に取り組む 7学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 8学年: 地域の産業・文化を学ぶ
ふたばの森 「知る」 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 地域の産業・文化を学ぶ 地域の課題・問題に取り組む	1学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 2学年: 地域の産業・文化を学ぶ 3学年: 地域の課題・問題に取り組む 4学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 5学年: 地域の産業・文化を学ぶ 6学年: 地域の課題・問題に取り組む 7学年: 地域の歴史・文化・自然を学ぶ 8学年: 地域の産業・文化を学ぶ

- 社会に開かれた教育課程の実現への理解を高めるために校内研修を充実させる必要がある。
- 作成したカリキュラムを機能させる仕組みや、検証・改善していく仕組みを確立する必要がある。
- 地域素材を生かし、教科等横断的な視点から学校・地域連携カリキュラムを見直す必要がある。また総合的な学習の時間を見直す必要がある。

(23) 下関市立王司小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）

・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

（３） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○東部中校区４校の教員が集まって４つの部会に分かれて９年間の子どもの育ちについて熟議をした。（８月１７日）地域連携部会では「東部中学校区 地域連携カリキュラム編成の見直し」を行った。「カリキュラム・マネジメントの手引き」をコンパクトにまとめた資料をもとに、従来のカリキュラムに「中学校区の教育目標」や「総合的な学習の時間を核とした９年間の単元配列表」を新たに織り込んだ学校・地域連携カリキュラムを作成することになった。今後各校で単元を書き込んで、カリキュラム編成の見直しを行い、地域と熟議をして計画を実現化していく予定である。

○一学期は学力向上推進リーダーとして訪問した際に、校長先生に学校・地域連携カリキュラムの見直しをお願いした。８月以降は「カリキュラム・マネジメントの手引き」を要約したものを作成し、管理職に渡して再度お願いをした。モデルとなる「学校・地域連携カリキュラム」は東部中校区でつくることとし、８月の中学校区連絡協議会で各校管理職の共通理解を確認した。

●今年度下関でカリ・マネの推進をする際に立ちはだかった大きな壁が「まちづくり協議会」と「新型コロナウイルス」であった。下関市のまちづくり協議会は各地区（小学校区単位）・各中学校区・各地域に一つずつ置かれており、それぞれが独立して活動している。小学校区の協議会は実績も十分で、まちづくりのため、小学校のために熱心に活動しているものが多い。逆に中学校では「よその地区の子どもまでは」「中学生は自分らでできる」といった意識が強く、活動も活発ではない。中学校区の地域協育ネット（学校地域協働本部）が他市町に比べ、機能していないと考える。

（24） 下関市立山の田中学校

（１） 研究テーマ

a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２） 調査研究の内容

・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化

・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修

・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

（３） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○夢が丘中学校では、１１月２９日に学校・地域連携カリキュラムを活用して熟議を実施した。生徒は参加していないが、令和４年度は、生徒も参加させての熟議の実施を予定している。

○彦島中学校では６月に学校運営協議会において、「めざす子ども像の共有と地域貢献について」をテーマに熟議を実施した。来年度は、地域連携カリキュラムを校区内の３小学校と連携して見直す計画である。

○東部中学校では、１１月１７日に熟議を行ったが、生徒は参加していない。令和４年度は生徒会の執行部の生徒を参加させて熟議を行う事を計画している。

○山の田中学校では、校区内の山口南総合支援学校・生野小学校・山の田小学校と４校の合同の

熟議を2度行う計画をしたが、コロナ禍でタイミングが悪く実施はかなわなかった。地域の方からも実施を強く望む声も上がり、来年度は夏季休暇中の実施を計画している。

○授業を参観する度に、授業の振り返りレポートを作成し、それを基に授業改善の視点を個々の教員に伝えている。特に育成したい資質・能力を育てるために、「めあての提示」と、「めあてに対する毎時間の生徒の振り返り」をお願いしてきた。

○ICTの活用については、積極的に利用を提案してきたこともあり、また、1人1台端末で、危機感を持つ教員も増えてきて、情報活用能力の育成の下地はできつつある。

●教科書を離れ、自作のプリントを中心に授業を進める教員が増え、教材が共有されないことが目立ち、板書計画がなされていない授業がある。

(25) 萩市立椿西小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 地域連携の教育活動を、探究的な学習に位置付けられるよう、活動内容や年間の計画を見直しながら、実践した。
- 現在の子供たちの現状と課題を家庭、地域、そして学校のそれぞれの立場で出し合い、共有し、今年度の取組について意見を集めた。
- 小中連携カリキュラムの中の地域と連携した取組に関わる内容を具体的に示し見直した。
- 総合的な学習の時間の取組と地域との連携を整理し、年間指導計画の見直しを行う必要がある。
- SDGsの視点を入れた教科等横断的な学習を設定し、「追究・探究」を具体化し、学習の成果をアウトプットする場を工夫する必要がある。
- 中学校区でめざす子供像を共通にするために、小中連携、地域連携の担当者が集まり、協議会を行う必要がある。

(26) 萩市立萩西中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成

- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営

（３） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○学校運営協議会での熟議やPTA執行部の方との懇談会を通して、地域の声や保護者の思いなどを知り、今後の生徒会活動に生かしていこうとする意欲につながった。特に学校運営協議会の委員の方とは、年間３回の熟議をとおして、生徒会執行部の取組を紹介したり、生徒のあいさつの現状について意見を聞いたりした。たくさんの励ましの言葉をいただき、生徒の主体性を高めるよい時間となった。

○社会に開かれた教育課程の実現を理解させるために行ったカリキュラム・マネジメントの校内研修においては、萩市教委 田中指導主事を招いて、萩市立大島小中学校でのカリキュラム・マネジメントの実践事例を含めた話をしていただき、その後、本校の学校・地域連携カリキュラムの見直しと検討を行った。

●萩西中学校は世界遺産の中にある学校であるため、地域素材は豊富である。その素材を生かして学校・地域連携カリキュラムで捉え直す必要がある。

●萩市は現在、小中一貫教育校が６校、１小１中の小規模校が４校ある。そのため、９年間を見通したカリキュラムを作成し、実践しやすい状況にあるといえる。また、地域とのつながりも強く、運動会や文化祭などの幼小中の行事を地域と一緒にやっているところも多い。総合的な学習の時間を通して地域の文化や産業について学ぶ機会も多いため、各学校、地域に応じて活動を充実させていきたい。

（27）長門市立仙崎小学校

（１） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２） 調査研究の内容

・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化

・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）

・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

（３） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○カリキュラム・マネジメントファイルやカリキュラム・マネジメントシートをもとに、訪問校の校長先生と今年度の取組状況や来年度の方向性について話すことができた。

○市内の複式学級を有する神田小学校と通小学校では、小規模校連携の一環で、リモートを使って授業や週１回の帰りの会を行っている。来年度も引き続き行うためには、カリキュラムや校時表を見直す必要があり、カリキュラム・マネジメントを中学校区の学校だけでなく、交流する学校とも協議し、進めていくことが大事であることが分かった。

- 教職員、保護者、地域の方とめざす子ども像の共有をどのタイミングで行うか時期の設定に課題がある。
- 教職員のカリキュラム・マネジメント研修の計画が不十分で、理解が進んでいない。
- 学校・地域連携カリキュラムについては、文字が多く分かりづらい面がある。誰が見てもわかりやすくなるよう改善する必要がある、そのための仕組みづくりが必要である。
- 本学園の特色である「みすゞ教育」が生かしきれていないので、学校・地域連携カリキュラムに反映させる必要がある。
- カリキュラム・マネジメントについての情報発信が必要で、ミニ研修を充実させる必要がある。（授業とカリ・マネ、授業シート作成スタイルの見直し）

(28) 長門市立深川中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

○3小学校、1中学校の委員、教職員約50名が集まり、「地域でめざす子ども像」の具現化に向けて熟議を行った。

熟議のテーマ：「長門を愛するには」「挨拶でつながるには」「思いや考えを伝えられるようになるには」

○第4回学校運営協議会には、2年生の生徒会役員が参加して「深川中学校をよりよくするために」というテーマで、生徒会の意見を先に述べ、委員の方から意見をいただくという形で熟議を始めた。「生徒同士がもっと関わるきっかけを作りたい」「信頼関係を深めたい」「生徒から地域へメッセージを発信したい」「アンケート等で生徒や地域の方の思いや意見を聞きたい」「コロナ禍で活動が制限されている中でも交流できる活動を企画したい」等、生徒の力強い言葉に委員の皆さんも感心されていた。公民館長やPTA役員の方からお力添えをいただける励ましの言葉があった。

●これまでの深川中学校の教育構想を継承しながら、グランドデザインやチャレンジ目標等ができるかぎりシンプルにしていく必要がある。合わせて、3つの部会についてもよりよく活動が進むように再編成を図っていく。

○実践校における毎日の予定と年間実施スケジュール 各校の訪問等の例

学力向上推進リーダーの日々の業務は、各校の先生方の授業を参観し、協議するという授業改善と、管理職との面談をとおしてカリキュラム・マネジメントを推進すること、校内研修の中でカ

リキュラム・マネジメントを推進すること等があげられる。

1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目	6 時間目	放課後
授業参観	授業参観	授業参観	授業参観	管理職面談	協議	ミニ研修会

月	取組内容
4 月	学校運営協議会の企画・運営（または参加）
5 月	
6 月	校内研修等の企画や指導助言
7 月	学校運営協議会の企画・運営（または参加）
8 月	小中合同研修会（9 年間で育成したい資質・能力等の熟議）
9 月	
10 月	
11 月	校内研修等の企画や指導助言
12 月	学校運営協議会の企画・運営（または参加）
1 月	
2 月	
3 月	学校運営協議会の企画・運営（または参加）

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果、●：課題、◇改善方策）

《主な成果》

- 県主催のカリキュラム・マネジメントに関する研修が充実し、学力向上推進リーダーのカリキュラム・マネジメントに関する理解が深まり、各学校での研修を通して教職員の学校教育目標や育成すべき資質・能力、日々の教育活動等の見直しに対する教職員の意識が高まりつつある。
- コロナ禍で実施が難しい中、学校運営協議会における熟議（学校・地域で育成したい資質・能力の明確化）が進んできた。（県の独自調査：小 96.0% 中 94.3%）更に、児童生徒が熟議に参加する学校も増加している。（県の独自調査：小 26.4% 中 39.0%）
- 学校訪問の際に使用するカリキュラム・マネジメントシートを使った管理職面談と、シートを使った県教育委員会と市町教育委員会との情報共有ができた。

《主な課題》

- 学校教育目標や、育成したい資質・能力について、中学校区内の小中合同の研修会等とおして理解は進められているが、授業レベルでの実現がなされていない。
- 各校では、「学校・地域連携カリキュラム」として「グランドデザイン」「9年間の単元配列表」が作成されているが、授業改善や行事等、日々の教育活動の見直しにつなげていない。
- 多くの学校では、学校運営協議会等で「学校・地域連携カリキュラム」について協議しているが、児童生徒の熟議への参加は充分とはいえない。
- コロナ禍で、県外視察が制限され、オンライン中心の研修になり、学力向上推進リーダーに提供する研修（情報）が県内中心のものに偏った。

このような成果と課題を踏まえて、次の点を重点にして取り組み、各学校の知見をカリキュラム・マネジメントの手引きとしてまとめる。

《次年度に向けた改善方策》

- ◇学校教育目標等を実現するために、ユニット型研修（学校運営協議会の委員との授業検討会）の充実（頻度をあげる）
- ◇学校運営協議会等において、児童生徒が参加する熟議の充実

◇学力向上推進リーダーの学校訪問だけでなく、市町教育委員会学校担当指導主事や県教育庁義務教育課指導主事の学校訪問の際での、カリキュラムマネジメントシートを活用した管理職面談の充実

4. 参考資料

【必須】

- ①実践地域の取組の概要が分かるもの
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料
 - ※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

【任意】

- ・各種アンケート結果
- ・その他 参考となる資料